

みすず野

哲学的な題名だけに、何が書かれているのだろうかと思う。松本深志高校のPTA会報に「リレー随想」として掲載された、同窓生のコラムを一冊にまとめた随想集『樹人の磁界に』だ◆編集した元高校教諭の鈴岡潤一さん(松本市)が後記で述べている。コラムを時系列に置き直したとき、繋が^{つな}がっていないのに繋がっていると感じさせ、百年の計は人を育てることにあると思った。「樹人」の言葉が浮かび、その営みは「磁界」の中に存在しているのではないかと◆会報9号(2005年度)から33号(2013年度)まで連載された24編に、別の4編を加えた。「志たかく」「きけわだつみのこえ60年」「最後の旧制松中生たち」「深志高校最初の女生徒」「灯台下暗し」「60年安保と深志生の『市中行進』」「歴史を偽ることはできない」「西穂を記憶する」ほか、題名を読んだだけで興味がわく◆童話作家・はまみつをさん(故人)の「北を指す」も珠玉の一編。藤岡筑邨先生がある日、黒板いっぱい書いた一句を引き合いに「教師がみせる一瞬のきらめきによって、生徒の魂はゆさぶられ、生涯を左右するのだ」と刻している。